



## 2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月13日

上場会社名 テクミラホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3627 URL <https://www.tecmira.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 昌史  
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 藤代 哲 TEL (03)6838-8800  
四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年2月期第2四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	4,134	8.9	△34	ー	54	2.1	34	117.9
2023年2月期第2四半期	3,795	△19.8	△48	ー	53	△47.1	15	△97.2

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 227百万円(△10.3%) 2023年2月期第2四半期 254百万円(△53.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	2.93	2.88
2023年2月期第2四半期	1.34	1.29

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第2四半期	7,920	5,790	72.3	485.45
2023年2月期	8,021	5,593	69.1	474.68

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 5,728百万円 2023年2月期 5,543百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	ー	0.00	ー	5.00	5.00
2024年2月期	ー	0.00	ー	ー	ー
2024年2月期(予想)	ー	ー	ー	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,200	17.8	ー	ー	500	29.4	360	36.9	30.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期2Q	12,459,800株	2023年2月期	12,339,500株
② 期末自己株式数	2024年2月期2Q	660,105株	2023年2月期	660,105株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期2Q	11,734,260株	2023年2月期2Q	11,824,770株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
経営成績に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（自2023年3月1日至2023年8月31日）における日本経済は、輸出やインバウンド需要の拡大、宿泊・飲食・レジャー等サービス支出の増加等により、4月～6月のGDP成長率が前期比1.2%、年率換算4.8%と好調に推移しました。エネルギーや食料等の諸物価の上昇や急激な為替変動、海外景気の下振れリスク等、注視すべきリスク要因はあるものの、アフターコロナに向けた流れが進展するなか、今後も持続的な景気回復が期待されています。

経済活動・社会生活の正常化が加速するなかで、揺籃期にあったDX（デジタルトランスフォーメーション）が、教育、健康、決済、医療、行政など、あらゆる領域で本格化してきております。加えて、インバウンド需要のさらなる拡大やChatGPTなどのLLM（大規模言語モデル）に代表される世界的なAI市場の急拡大など、DXおよびICT市場は今後もさらなる拡大が見込まれています。

こういった状況のなか、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は4,134,186千円（前年同期比8.9%増）、営業損失は34,709千円（前年同期は営業損失48,828千円）、経常利益は54,317千円（前年同期比2.1%増）、純利益は34,403千円（前年同期比117.9%増）と、前年同期に比べ増収増益という結果になりました。

ライフデザイン事業においては、ヘルスケア、医療介護、FinTech等のBtoBサービスは堅調に推移していますが、昨年度業績に大きく寄与したNintendo Switchソフトの海外販売が一巡したため減収減益となりました。AI&クラウド事業も、AIチャットボットなどのSaaS事業は好調、拡大を継続していますが、ChatGPTソリューションなどのAI領域での事業拡大に向けてのリソースシフトにより一般受託開発案件の絞り込みを行っていること等により、減収減益となりました。一方、コネクテッド事業が、コロナ禍で低迷した前年同期に比べ、IoT関連を中心にODM事業の受注・生産が好調に推移したことおよび移転した新工場での稼働率が向上したこと等により、黒字転換を果たし、大幅な増益となりました。

以上により、グループ全体としては、売上高は前年同期比で増収、経常利益においては、為替差益は縮小したものの、コーポレートベンチャーキャピタルファンド設立に伴う株式譲渡による営業外収益もあり若干の増益を確保、純利益については、法人税等調整額の益計上により法人税等が減少したことから、前年同期の約2.2倍の増益となりました。

セグメント別の事業動向については以下の通りです。

### <ライフデザイン事業>

当第2四半期連結累計期間におけるライフデザイン事業の売上高は1,173,291千円（前年同期比32.3%減）、セグメント利益24,988千円（前年同期比90.3%減）となりました。

ライフデザイン事業については、全世界で累計出荷本数50万本を突破したNintendo Switchソフト「クレヨンしんちゃん『オラと博士の夏休み』」の海外展開が一巡したことにより、今期においては減収減益となりました。9月15日に発表した新作ソフト「クレヨンしんちゃん『炭の町のシロ』」は、今下期の発売に向け、現在、順調に開発を推進するとともに、前作で得た販売ノウハウを活かし、世界展開に向けたマーケティング施策を構築している段階にあります。BtoBサービスでは健康支援サービス「RenoBody」やハウスマネー決済サービス「ValueWallet」、医療介護向けプラットフォーム「KarteConnect」等のクラウドサービスが着実に採用を拡大しております。また、ソリューション案件は、GIGAスクール向け教育コンテンツや、保険会社向けヘルスケアサービスなど、当社の強みを活かした収益性の高い案件に注力していく方針の下、受注活動を展開しています。

### <AI&クラウド事業>

当第2四半期連結累計期間におけるAI&クラウド事業の売上高は861,598千円（前年同期比8.4%減）、セグメント利益は12,864千円（前年同期比70.8%減）となりました。

AI&クラウド事業については、新規サービス“OfficeBot powered by ChatGPT API”の展開が好調で、SaaS事業が順調に拡大しています。一般企業向けの導入に加え、自治体においても導入が進んでおり、今期においては、東京都千代田区や北海道東川町で導入、実証実験を開始しております。また、今夏開催された「BOXIL SaaS AWARD Summer 2023」では、『OfficeBot』が「Good Service」に選出されました。同サービスの引き合いが活発なことから、顧客対応を拡充するために営業部隊の拡大を推進しています。

また、SaaS事業におけるAIサービス拡大と並行してソリューション分野でもAI分野の拡大を図っており、ChatGPTの活用ノウハウをベースとしたソリューション案件の獲得を積極的に推進しております。

<コネクテッド事業>

当第2四半期連結累計期間におけるコネクテッド事業の売上高は2,143,767千円（前年同期比76.7%増）、セグメント利益は71,038千円（前年同期はセグメント損失202,882千円）となりました。

コネクテッド事業については、2023年3月に拡張移転した中国の新工場が順調に稼働するなか、アフターコロナに向けた動きが加速、IoT関連のODM受注が拡大したことにより、売上高は前年同期比約1.8倍の増収となりました。この結果、前年同期および前期のセグメント損失の状態から大幅に回復、黒字転換を果たしました。aiwaブランドについては、認知度の拡大に向け量販店での展開を強化するとともに、10.1インチタブレット『aiwa tab AS10(6)』など、新製品を順次投入しており、ラインアップの拡充を図っております。また、aiwa製品の拡販に向けて、アイワ株式会社と共同で6月20日に「アイワマーケティングジャパン株式会社」を設立、法人向け販売チャンネルと量販店を中心としたコンシューマチャンネル、双方に向けてのマーケティング展開の強化を図っています。

第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しており、前年同期比較については、変更後のセグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

また、セグメント別の事業動向に記載の各セグメントの売上高については、外部顧客への売上高にセグメント間の内部売上高又は振替高を加えた金額を記載しております。詳細は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,983,960	2,249,345
受取手形、売掛金及び契約資産	1,705,890	1,394,213
商品及び製品	317,461	328,038
仕掛品	246,024	326,214
原材料	354,499	221,152
関係会社短期貸付金	100,000	—
前渡金	98,507	300,563
その他	354,646	297,988
流動資産合計	6,160,990	5,117,516
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	128,712	176,929
車両運搬具（純額）	1,732	1,847
器具備品（純額）	78,393	79,872
建設仮勘定	1,433	1,433
有形固定資産合計	210,272	260,083
無形固定資産		
ソフトウェア	211,522	316,043
ソフトウェア仮勘定	329,524	507,722
のれん	2,891	—
その他	7,573	8,447
無形固定資産合計	551,511	832,213
投資その他の資産		
投資有価証券	717,300	817,757
出資金	—	450,000
長期貸付金	—	80,000
繰延税金資産	182,156	181,859
差入保証金	207,909	189,752
その他	28,882	28,478
貸倒引当金	△37,131	△37,131
投資その他の資産合計	1,099,116	1,710,715
固定資産合計	1,860,900	2,803,012
資産合計	8,021,890	7,920,529

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	357,787	320,164
短期借入金	—	43,860
1年内返済予定の長期借入金	399,016	374,180
未払法人税等	5,866	34,962
契約負債	128,840	247,255
賞与引当金	215,515	125,135
製品保証引当金	40,637	961
その他	435,505	307,443
流動負債合計	1,583,169	1,453,962
固定負債		
長期借入金	792,196	619,504
繰延税金負債	10,955	15,235
資産除去債務	35,368	35,548
その他	6,236	6,120
固定負債合計	844,755	676,408
負債合計	2,427,924	2,130,371
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,403,000	2,409,496
資本剰余金	1,511,991	1,518,487
利益剰余金	1,794,478	1,770,230
自己株式	△297,166	△297,166
株主資本合計	5,412,304	5,401,048
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,250	142,322
繰延ヘッジ損益	△22,173	7,791
為替換算調整勘定	143,538	176,958
その他の包括利益累計額合計	131,615	327,073
新株予約権	50,045	57,167
非支配株主持分	—	4,868
純資産合計	5,593,965	5,790,157
負債純資産合計	8,021,890	7,920,529

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	3,795,042	4,134,186
売上原価	2,348,005	2,687,384
売上総利益	1,447,036	1,446,802
販売費及び一般管理費	1,495,865	1,481,511
営業損失(△)	△48,828	△34,709
営業外収益		
投資有価証券売却益	—	72,734
その他	109,555	21,689
営業外収益合計	109,555	94,423
営業外費用		
支払利息	4,964	3,891
その他	2,566	1,505
営業外費用合計	7,530	5,396
経常利益	53,196	54,317
税金等調整前四半期純利益	53,196	54,317
法人税等	37,405	21,982
四半期純利益	15,790	32,335
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△2,067
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,790	34,403



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	15,790	32,335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	75,307	132,072
繰延ヘッジ損益	26,304	29,965
為替換算調整勘定	136,672	33,420
その他の包括利益合計	238,284	195,457
四半期包括利益	254,074	227,793
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	254,074	229,861
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△2,067

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	53,196	54,317
減価償却費	118,029	96,494
のれん償却額	17,349	2,891
持分法による投資損益 (△は益)	1,014	△108
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△72,734
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△755	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△129,905	△90,379
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	—	△39,676
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	155,937	313,399
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△279,708	42,673
仕入債務の増減額 (△は減少)	△131,932	△37,622
契約負債の増減額 (△は減少)	68,083	118,415
前渡金の増減額 (△は増加)	△39,739	△202,055
その他	△182,357	△29,034
小計	△350,788	156,579
利息及び配当金の受取額	1,906	1,730
利息の支払額	△4,469	△4,426
移転費用の支払額	—	△31,220
法人税等の支払額	△271,874	△32,994
法人税等の還付額	5,306	103,459
営業活動によるキャッシュ・フロー	△619,919	193,128
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△8,271	△48,560
無形固定資産の取得による支出	△204,263	△350,719
投資有価証券の取得による支出	△10,000	△152,840
投資有価証券の売却による収入	—	234,882
出資金の払込による支出	—	△450,000
長期貸付けによる支出	—	△80,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△222,535	△847,237
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△89,539	42,291
長期借入金の返済による支出	△217,190	△197,528
株式の発行による収入	4	12,678
非支配株主からの払込みによる収入	—	5,000
自己株式の取得による支出	△181,800	—
リース債務の返済による支出	△445	△477
配当金の支払額	△118,467	△58,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	△607,439	△196,081
現金及び現金同等物に係る換算差額	165,583	43,224
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,284,310	△806,966
現金及び現金同等物の期首残高	4,982,263	2,983,960
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	72,352
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,697,953	2,249,345

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ライフデザイン 事業	AI&クラウド事 業	コネクテッド事 業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	1,726,432	874,127	1,194,482	3,795,042	—	3,795,042
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	6,525	66,361	18,900	91,786	△91,786	—
計	1,732,957	940,489	1,213,382	3,886,829	△91,786	3,795,042
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	256,738	44,038	△202,882	97,894	△146,723	△48,828

(注) 1. セグメント利益の調整額△146,723千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△129,373千円、のれんの償却額△17,349千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ライフデザイン 事業	AI&クラウド事 業	コネクテッド事 業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	1,172,563	833,485	2,128,137	4,134,186	—	4,134,186
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	727	28,112	15,630	44,470	△44,470	—
計	1,173,291	861,598	2,143,767	4,178,657	△44,470	4,134,186
セグメント利益又はセ グメント損失 (△)	24,988	12,864	71,038	108,891	△143,600	△34,709

(注) 1. セグメント利益の調整額△143,600千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△140,709千円、のれんの償却額△2,891千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

ICT市場における技術革新や顧客動向などの事業環境が変化する中、中長期的な企業価値向上に向けた経営戦略の再構築に合わせ、第1四半期連結会計期間より、「ライフデザイン事業」、「ビジネスイノベーション事業」、「コネクテッドソリューション事業」としていた従来の報告セグメントを、自社サービス展開による優位性を活かしたヘルスケア・教育・決済等のライフデザインソリューションを強化し、従来セグメントを拡張した「ライフデザイン事業」、これまで展開してきたチャットボットやSaaS事業の知見を活かし、AIとクラウドにフォーカスしたサービス&ソリューション事業への取り組みを強化した「AI&クラウド事業」、深圳のサプライチェーンを活用したコネクテッドデバイスの企画/開発/製造とデバイス・クラウド・ネットワーク一体型のソリューションの提供に加え、自社製品の提供を強化・拡大した「コネクテッド事業」の3つの報告セグメントへと変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。